

女子大学生におけるHIV感染症のイメージと偏見の構造

飯田敏晴^{1,2} 山本茉樹¹ 伊藤武彦³ 井上孝代⁴

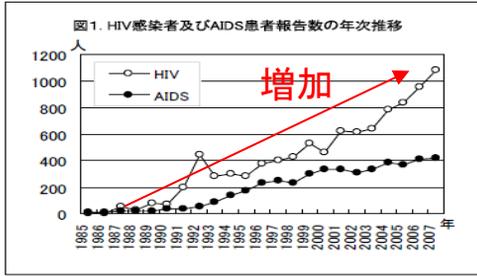
1) 明治学院大学大学院心理学研究科 2) 国立国際医療センター 精神科

3) 和光大学現代人間学部

4) 明治学院大学心理学部

問題と目的

1 HIV感染/AIDSの報告件数の増加



(エイズ動向委員会, 2008)

日本は、先進国で**唯一**増加傾向(2005)

2 HIVと共に生きる人たちの受ける偏見・差別

Table1 1990年代のアメリカでのHIV感染/AIDSに対する偏見・差別的態度の変遷(一部)

	91年	96-97年	98-99年
感染者氏名の特定政策に対する支持率	28.80%	18.60%	16.30%
隔離政策に対する支持率	34.40%	16.60%	12.00%
怒り	27.70%	20.40%	14.80%
HIV陽性者に対する感情			
不安(afraid)	34.60%	20.00%	20.20%
嫌悪(disgusted)	26.60%	18.30%	16.00%
AIDSになったのは自分の責任である	NA	53.50%	48.30%
エイズを患う人々は、性交渉やドラッグによって感染するに値するだけのことをしている。	20.30%	28.10%	24.80%

出典:Herek, G.M., Capitanio, J.P., & Widaman, K.F. (2002). HIV-related stigma and knowledge in the United States: Prevalence and Trends, 1991-1999. American journal of public health, 92(3), 371-377 ※訳は筆頭発表者による。

(女性の)HIV感染に対する心理社会的問題
※不就労、心理的影響、周囲との関係性)

3. 予防教育

○Lewisら(2003)のコミュニティカウンセリングの4領域のうち、**直接的コミュニティサービス**として重視

○HIV感染/AIDSに対する偏見・差別・スティグマの低減が、**疫学的な重要課題**という指摘(Parkerら,2003)

1. 本邦で心理学的観点からの研究は乏しい

2. 実態把握の必要性

方法

対象: 首都圏内A大学の女子大学生125名

実施方法: 2007年11月に、A大学の一般教養科目(ジェンダー論)『HIVとAIDSについて』の際、授業教材として配布した。アンケート用紙記入は、無記名、任意とし配布され回収。またパワーポイントをHIV感染/AIDSに関する知識提供を目的とした授業後、抗体検査の受検可能な地域の保健所、および拠点病院を紹介。

質問内容:

HIV/AIDS感染後の「**自分または周囲の変化**」について自由記述にて回答を求めた。

回収後大学院生1名と筆者により、K-J法により分類した(Table1 参照)

(有効回答:100名(80%))。

結果と考察

Table2 HIV感染後の自身または周囲の変化

大カテゴリー	小カテゴリー	定義
周囲の態度	偏見	偏見の目で見られる。
	差別	避けられたり、隔離されたりする。
	非難	親や友人から非難される。
変化・喪失	生き方・生活	生活スタイルや環境が変わる。
	身体	病気にかかりやすくなる。
	出産	子どもを産めなくなる。
気遣い	サポート	家族や友人から心配される。
	感染予防	他者に感染させないように気を使う。
	身体的健康	怪我や病気に気を使うようになる。
回避行動	対人接触	人に会いたくなくなる
	隠蔽	本音で話せなくなったり、周囲に言わなくなる。
孤独	家族関係	家族から離れる。
	恋人関係	彼氏と別れたり、出来なくなる。
	友人関係	友達が減ったり、いなくなる
落胆	気分	動揺したり、気分が落ちこむ。
	絶望	生きる気力が無くなり、自殺しそう。
HIVとの距離感	戦い	HIVとの戦い。
	不変	何も変わらない、これまで通り。
	不明	分からない。

【周囲の態度】 HIV陽性者が感じていることと一致(Berger他, 2001)

【変化・喪失】・・・服薬遵守、医学管理下による母子感染2%以下
⇒適切な知識提供による心理教育＝過剰な予測の低減

【気遣い】・・・適応的な社会生活を過ごしていく上で必要
⇒治療に対する負担と、病気について開示するという負担

【周囲の態度】・・・**偏見や差別が内面化＝他者の反応を怖れ、【回避行動】の生起を予測?**

【孤独】受療行動やAIDS発症との相関(Swedeman他, 2006)、対人関係が豊かな人ほど、免疫状態が良好()

家族、恋人、友人との関わりにおいてよい経験=高いQOL

⇒**予防行動や治療継続に対する意欲を高めるための取り組み**

【落胆】・・・気分障害をはじめとした精神疾患の罹患率2倍

⇒**1次予防における検討の必要性**

【HIVとの距離感】・・・HIV感染=**身近な問題?**

以上のように、**HIV感染に対して、身体的な変化のみならず、心理社会的な多様な変化を予測していることがわかった。今後は、こうした予測が、感染予防に対する行動や態度、HIVに対する偏見とどのように関連しているのかについて検討していきたい。**

図2 K-J法による仮説モデル

